

たかつきの財政状況

◇都市機能の充実

- 高槻城跡公園芸術文化劇場の整備と城跡公園の整備を推進(写真①~③) …6億6,398万円
- 安満遺跡公園全面開園への整備を推進(写真④) …7億8,301万円
- 高槻駅緑町線と富田芝生線の都市計画道路の整備を推進(写真⑥) …6億1,941万円

◇安全・安心のまちづくり

- 「市民避難訓練」(写真⑤)、「市民防災シンポジウム」などを実施し、地域防災力を強化…396万円
- 城跡公園内雨水貯留施設の整備(写真⑦)、芥川小学校などに校庭を活用した雨水流出抑制施設を整備…6億5,989万円

◇子育て・教育環境の充実

- 市立認定こども園の整備を推進(五領・三箇牧認定こども園) …5億7,787万円
- 英語教育を充実(写真⑨) …7,079万円
- ブロック塀などの撤去、安全対策のあり方を示す手引書の改定など、学校安全の取り組みを推進…4億53万円

◇健康・福祉の充実

- 住民主体の通いの場を充実・拡大するなど、効果的な介護予防を推進(写真⑧) …4,930万円

◇産業の振興

- 地産地消の推進に向け、地元農産物の安定した生産を支援…275万円
- 地域商業の活性化に向け、商店街などの取り組みを支援するほか、商工会議所との連携を強化…1,293万円
- 観光協会などと連携し、オープンたかつきを実施(写真⑩) …2,900万円
- 「歴史のまち高槻」を全国に発信…1,510万円

◇良好な環境の形成

- 第一工場解体などごみ処理施設の更新事業の完了に向けた取り組み…1,823万円

◇市民生活の充実

- 将棋文化を振興(タイトル戦の開催、子ども将棋教室の運営支援など、写真⑪) …814万円
- 市役所本館1階のレイアウト変更を完了(写真⑫) …1億6万円



4



5 市民避難訓練(令和元年11月)



6 富田芝生線



7 城跡公園内雨水貯留施設



8 もてもて筋力アップ体操(令和2年3月完成)



9 柱本小学校(令和元年10月)

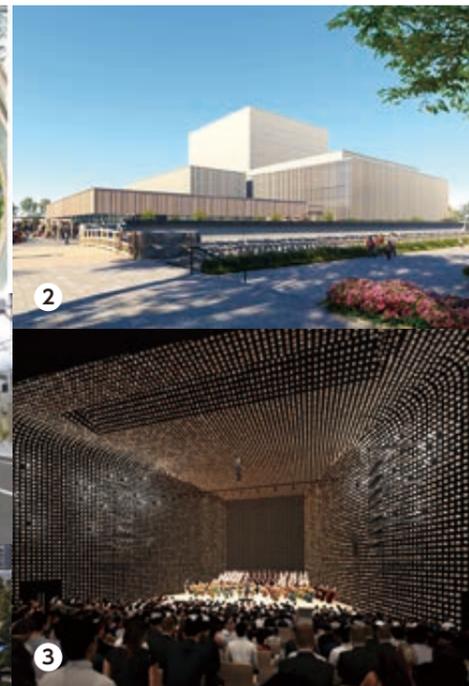


10



11

12



2

3



1 高槻城跡公園芸術文化劇場の整備(令和2年8月)

「防災」「富田」「歴史」に重点

令和元年度決算がまとまりました。決算は1年間の事業の内容を歳入(収入)と歳出(支出)で表したものです。

令和元年度は、より安全で災害に強いまちづくりを目指した「強靱きよつじん」なまちづくりや「富田地区のまちづくり」、城跡公園と新文化施設の整備など「高槻の歴史を継承するまちづくり」に重点を置いた施策を実施しました。

決算を通して、令和元年度に市が何にどれくらいお金を使ったか、そして将来にわたり市民の皆さんが安全・安心に暮らしているかどうか、どのような施策を進めたか、お伝えします。

問合せ先：財務管理室(☎674-7352)

健全化判断比率から見る財政状況

全ての指標で良好な結果

地方公共団体の財政状況を客観的に表すために指標化したものが、健全化判断比率です(右表)。赤字、借金返済の状況、将来に負担が見込まれる実質的な負債の大きさなどを表しています。令和元年度も、全ての指標が基準値を下回る良好な結果となりました。

家計に例えると…

少ない借金、余裕のあるローン返済と貯金によって、将来に過度な負担を残していない状態 **健全な財政状況を維持していると言えます**

令和元年度の健全化判断比率などの状況

指標	高槻市	早期健全化基準※
実質赤字比率 福祉・教育、まちづくりなどを行う一般会計を中心とした赤字の大きさ	なし(黒字)	11.25%
連結実質赤字比率 特別・企業会計も含めた全会計の赤字の大きさ	なし(黒字)	16.25%
実質公債費比率 年間の借金返済額の大きさ	-0.7%	25%
将来負担比率 将来に負担が見込まれる負債の大きさ	なし(負債以上に貯金などの備えがある)	350%

※この基準を超えると、健全化に向けた対策が必要になる

普通会計における 市民一人当たりの支出額



合計
32万
= 7,301円
(14万5,400円)

※カッコ内は各金額のうち、市税を財源とする額。令和2年3月末現在の人口で計算

※表示単位未満は四捨五入

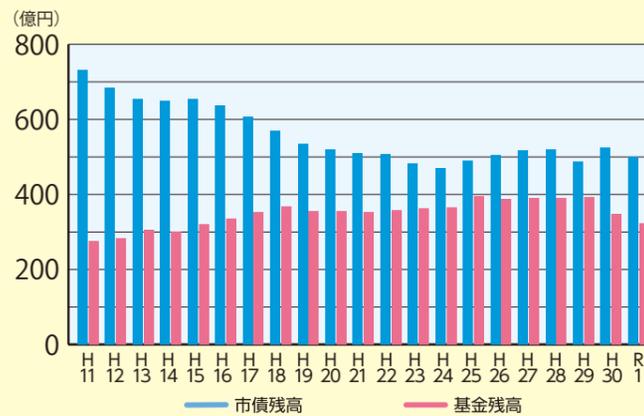
市債と基金

市役所本館の耐震化や安満遺跡公園の整備に活用

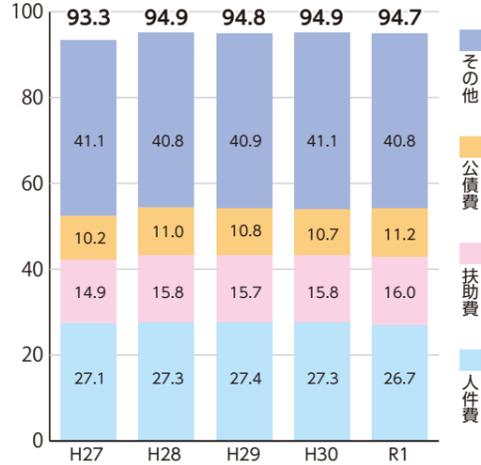
令和元年度は、市役所本館の耐震改修や安満遺跡公園の整備など大型事業を実施するために、市債(借金)や基金(貯金)を活用しました。

その結果、令和元年度末時点で、基金残高は、323億5,900万円(前年度比23億8,100万円減)となりました。市債は返済額が借入額を上回ったため、残高が500億3,600万円(前年度比25億800万円減)となりました。

市は、市債や基金を長期的な視点で、主に投資的事業(道路や公園、学校施設など将来にわたって利用する公共施設の建設)のために使っています。



経常収支比率の推移



財政余力 前年度から改善

財政の余力を示す経常収支比率は、令和元年度は94.7%で、前年度から0.2ポイント改善しました。経常収支比率は、できるだけ低く抑えることが望ましいのですが、生産年齢人口の減少による市税収入の減少や高齢化に伴う社会保障費の増加などにより、今後悪化していくものと見込まれます。将来にわたって必要な市民サービスの水準を確保し、安定した財政運営を行うため、より一層の行財政改革が求められます。

経常収支比率とは…縮減が難しく経常的にかかる経費が、自主的に使える財源に占める割合。比率が高いほど臨時出費にお金を回す余裕がなくなる

みらい創生の考え方

- ① 未来志向の魅力あるまちづくり
- ② 事業自体の必要性、市民の役割の検証
- ③ 生産性の向上
- ④ 相対的な世代間バランスの調整

「みらい創生の推進」
財政の健全性が保たれている今から改革を進める

今後の財政状況は、厳しいと見込まれます。市は現在は財政の健全性を保っていますが、今後は人口減少による市税収入の減少、超高齢化による社会保障費の増大、老朽化が進む公共施設の維持・更新に係る費用負担など、厳しい状況を迎えることが想定されます。財政が圧迫されると、現在行う行政サービスを続けることが難しくなります。そのような人口が流出し、財政状況

はさらに悪化していくという悪循環に陥る可能性があります。さらに昨年度末から続く新型コロナウイルス対策による歳入・歳出両面への影響が懸念されます。

将来を見据え、未来志向の改革目指す

市では、「みらいのための経営革新」に向けた改革方針の考え方(上図)に沿って改革を進めています。市民の皆さんが、健康で生き生きと暮らすことができ、誰もが住みやすいと思えるまちを目指し、20年、30年後の「輝く未来」を見据えた取り組みを進めていきます。

普通会計、一般会計、特別会計の実質収支

会計名	歳入	歳出	翌年度繰越財源	実質収支
普通会計	119,471,050	114,889,040	3,936,353	645,657
一般会計	120,919,716	116,375,392	3,905,200	639,124
公園墓地	363,519	354,486	0	9,033
駐車場	918,208	182,077	0	736,131
国民健康保険	37,319,819	36,866,442	0	453,376
介護保険	28,291,254	27,364,135	0	927,119
後期高齢者医療	6,199,693	6,021,700	0	177,994
母子父子寡婦福祉資金貸付金	93,159	64,506	0	28,654
財産区	5,059,190	99,704	0	4,959,486

※表示単位未満は四捨五入

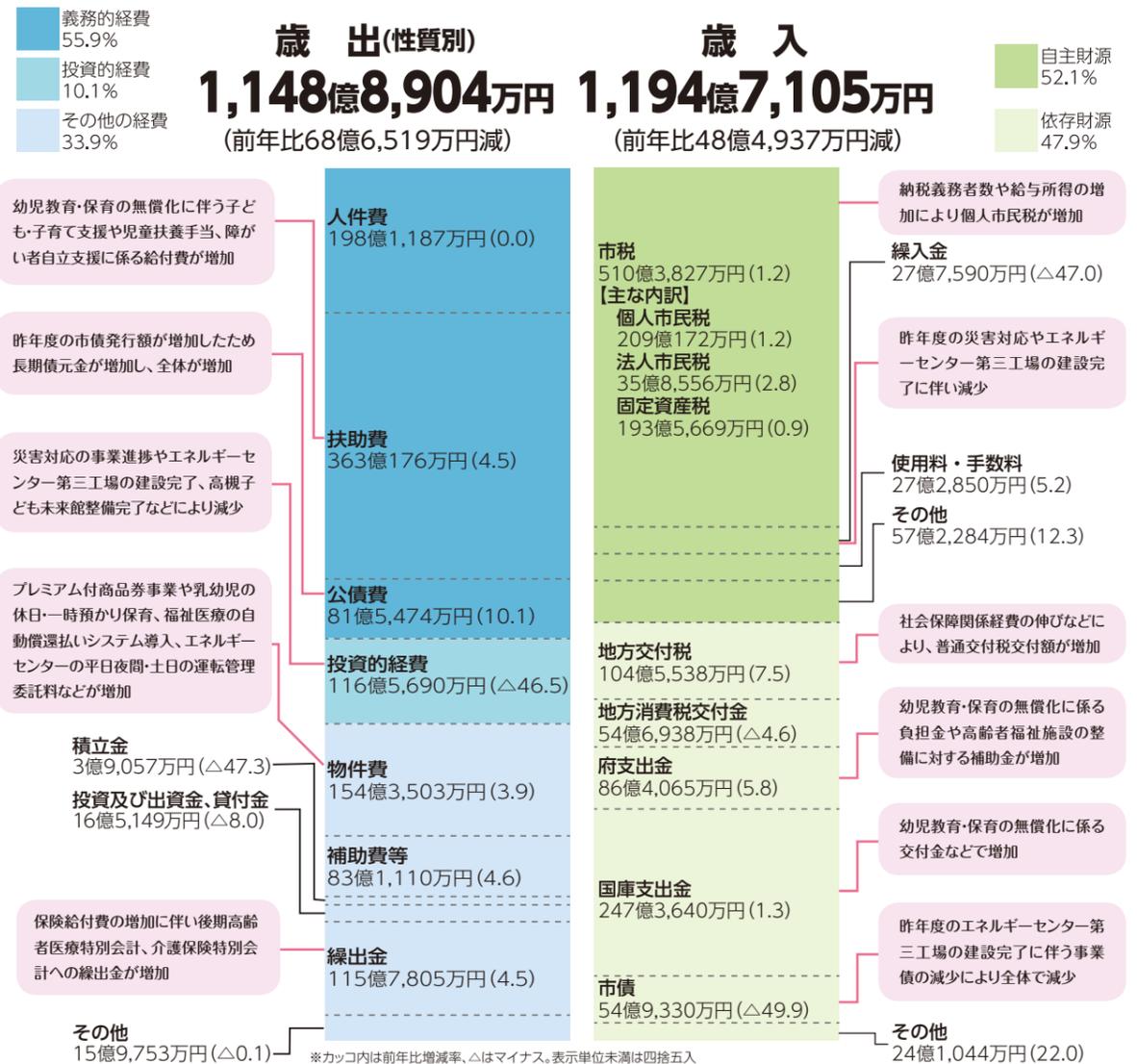
【一般会計】福祉、医療、教育や都市環境の整備を行うための会計。市税が主に使われる

【特別会計】利用料金や保険料収入などを財源とする特定の事業に関する会計。原則、独立採算制をとる

令和元年度の市の普通会計では、歳入・歳出とも前年度に比べて減少しました。減少の主な理由は、昨年度にエネルギーセンター第三工場の建設が完了したことや大阪府北部地震などの災害対応の進捗に伴い、投資的経費が大きく減少したためです。翌年度へ繰り越すべき財源39億3,600万円を差し引いた実質収支は、6億4,600万円の黒字です。

※決算の詳細は市ホームページをご覧ください

普通会計のグラフ



普通会計 実質収支は約6億円の黒字